

子どもたちの世代に残す財産とは

(財)日本生態系協会 会長
池谷奉文氏




「環境問題」を理解する企業・理解しない企業

——生態系や生物多様性の保全・再生という観点から見た場合、従来の建設事業はそれを阻害したり対立するものと捉えられがちですが、地球環境問題が深刻化していく中で建設産業は今後どのように考え、行動していけば良いのでしょうか。

これからの建設業界のありようは、非常にはっきりしています。それは、「環境問題とは何か」を理解できない企業は経営が成り立たなくなるということです。21世紀は20世紀の延長線上にはありません。社会が根底から変わり、現代は「環境」が最大・最重要のテーマとなっています。逆に言うと、「環境問題とは何か」をきちんと理解している企業には、やるべき仕事が沢山あります。

その意味では、これからの建設業界と私どものような環境NGOとが、建設事業の企画段階から実施段階まで協同して動けば、社会が納得してくれる良い仕事ができると思います。とかく20世紀は、建設業界と環境を守る団体は対立的な関係にありましたが、21世紀はそうではありません。互いに協力し合い、共に働くことによって、建設業界の市場は大きく開けると思



池谷奉文氏略歴
獣医師。現職をはじめ、(財)埼玉県生態系保護協会会長、(社)日本ナショナル・トラスト協会副会長、自然再生専門家会議委員、国土審議会特別委員、社会資本整備審議会公園緑地小委員会専門委員、河川水辺の国勢調査アドバイザー、埼玉県環境審議会委員など要職を兼務。講演や調査などで世界を飛び回っている。

います。

——従来の社会問題だと、例えば被告と原告というような当事者同士の問題でしたが、環境問題は、市民団体や地域住民等これまでにない様々な分野の人が参画してきて一緒に取り組んでいくイメージがあります。

ですから、これからの建設業界は環境のことをきちんと理解する必要があるわけです。

では、「環境」とは何か。実は、環境とは、自然生態系のことをいうのです。

自然生態系は、①太陽光線、②大気、③水、④土、⑤野生生物という、人間が生きていくために必要不可